

ふるさとを思い続ける 第10回首都圏大崎連絡協議会総会

3月18日、東京都台東区で第10回首都圏大崎連絡協議会と大崎ネットワーククラブの合同総会が開催され、両会の会員やおおさき宝大使など約100人が参加し、交流を深めました。首都圏大崎連絡協議会は、大崎市出身者で構成する在京組織の役員で構成された団体、大崎市ネットワーククラブは、大崎市出身者や支援者で構成された団体です。

総会では、両会の活動に尽力した4人に感謝状が贈られ、10年を記念して発行した記念誌が伊藤市長に贈呈されました。

基調講演では、産経新聞社の河合雅司論説委員から地方創生へ向けた話題として、「セカンド市民制度」を創設し、田舎がない都会人のふるさとや、大崎市を週末や長期休暇に利用した第2の居住地にすることやセカンド市民にゲストハウスの提供やまちづくり

への参加など、特典を付けることが提案されました。続いて行われたパネルディスカッションでは、大崎市出身者や第2市民として位置づけることや、ふるさと納税の特典に市と首都圏を結ぶバスを運行することなどの提案があり、活発な意見が交わられました。大崎市を離れても、故郷を想う心は変わらないことを確認し、市の発展に向けた有意義な意見交換となりました。



▲首都圏大崎連絡協議会のみなさん

宮沢地域振興協議会パートナーシップ協 定書調印式

3月30日、市役所本庁舎で、市と宮沢地域振興協議会（永塚精一会長）による、おおさきパートナーシップ（地域自治組織戦略体制整備モデル事業）協定書調印式が行われました。

この事業は、小学校区などの基礎的な生活圏の中で、地域を支える小さな拠点づくりを行い、ネットワークの構築を推進する、まちづくり協議会などに対し、市が支援を行うものです。

平成28年度にスタートしたこの事業は、宮沢地域振興協議会で4例目になります。今後は、地域支援コーディネーターを置き、地域住民とともに地域づくりを推進する具体的な方法などを定める、地域行動計画の策定や、地域づくり、人づくりを目的とする講座や研修会などの人材育成事業を行います。

地域の活動を担う人材不足、まちづくり団体の組織の弱体化が課題とされています。これらの課題解決には、人と人、人と地域のつながりが、よりいっそう重要になります。この事業を契機として、市民参加を基本とした話し合いを通じて、地域全体の活性化、住民の主体的かつ持続可能な地域づくりの実現が期待されます。



▲協定書に調印し、握手を交わす永塚会長(右)と伊藤市長(左)

2017 4月の主な出来事

29日	27日	19日	15日	14日	10日	8日	6日	3日
●三本木春まつり	●日本赤十字社宮城県支部から災害救援車両「はくあい号」の贈呈	●日本農業遺産認定証授与式および記念シンポジウム（農林水産省）	●岩出山さくら祭り（16日まで）	●鳴子温泉地域交通死亡事故ゼロ500日達成	●市立中学校入学式 ●鹿島台互市（12日まで）	●市立幼稚園入園式	●加護坊桜まつり（5月7日まで）	●地域おこし協力隊辞令交付式



▲ドライバーに交通安全を呼び掛ける

Discover Osaki

地域発 お・ら・ほ・の・ま・ち

自分の住む地域を「おらほ」というと、親しみや愛着を感じませんか。おらほの地域づくり、おらほの隠れた名所、おらほの美味しい特産品、おらほの伝統のまつり、おらほのイベント……。そんな、愛してやまない「おらほの地域」を発信します。



古川発

日本一の畳職人が、大崎市に誕生

▶受賞報告をする佐々木崇さん(左)と伊藤市長(右)



第29回技能グランプリの畳製作部門で、宮城県代表として出場した古川地域の佐々木崇さんが優勝し、日本一の畳職人となりました。

技能グランプリは厚生労働省などが主催し、さまざまな職種の日本一を決める大会で、2年に一度開催されています。畳製作部門には全国

から20人が出場。5時間以内に指定された畳2枚を作り、大きさの精度や出来栄などを競いました。

佐々木さんは、「洋間が増え、畳の使い方が変化しているが、いいものを作りたい。学んだことを若い職人に伝えていきたい」と抱負を語ってくれました。

田尻発

60年以上、地域の皆さんに親しまれた円形庁舎と笑顔の別れ

4月16日、田尻総合支所新庁舎建設に伴い解体する、現在の田尻総合支所庁舎のお別れ会に、地域の皆さんをはじめ約100人が集まり、別れを惜しましました。庁舎の中や屋上を見学した皆さんは、「中学生のころに、庁舎の屋上から眺めた景色が懐かしい」などと思い出を話していました。

この庁舎は全国でも珍しい円形建築で、中央に吹き抜けのらせん階段があり、それを囲むように扇形の部屋が配置されています。東日本大震災をはじめ、数々の大地震を耐えてきましたが、老朽化が進んでおり、新しい庁舎への建て替えが決まりました。

現在の庁舎は6月から解体が始まり、同じ場所で新しい庁舎の建設が始まります。平成31年の春に供用開始の予定で、新しい田尻地域のランドマークとして完成が待ち望まれています。



田尻総合支所(旧田尻町役場)円形庁舎の概要

建築面積	鉄筋コンクリート造:410.322㎡ 木造:25.872㎡、延面積:830.016㎡
構造	鉄筋コンクリート造2階建、一部屋階付 直径:22m、軒高:7.40m、最高の高さ:10.25m
総工費	1,130万円(坪当43,800円)
竣工	昭和33年4月15日
設計	建築総合計画研究所長 坂本 鹿名夫

